

B ドイツ語 1 第 2 回 接続法の形態、接続法 I 式

範囲: 文法教科書 S. 70-72 (CD トラック 87-89)

文法教科書第 18 課. 接続法

〈接続法とは〉 (補足)

・ドイツ語の動詞の法 (Modus) には、直説法 (Indikativ)、命令法 (Imperativ) に加えて**接続法** (Konjunktiv) が存在する。

・接続法は英語の仮定法 (*subjunctive*) にほぼ対応すると考えてよいが、主な相違点は、

(1) **I 式と II 式の二形式が存在する**

(2) **間接話法**を接続法で行う

・系譜的には、英語の仮定法現在が接続法 I 式に、仮定法過去や仮定法過去完了が接続法 II 式に対応する。

・概略としては、

(1) 接続法 I 式: 間接話法 (一部は II 式)、要求話法、認容表現

(2) 接続法 II 式: 婉曲表現 (外交的接続法)、非現実話法

というように使い分ける。

* 文法教科書第 8 課 (S. 32) で「命令文」として習った「語幹+en Sie」の構文は、実は命令法ではなく接続法 I 式の要求話法である。

** 文法教科書第 7 課 (S. 29) で「話法の助動詞」として習った *möchte* は、実は話法の助動詞 *mögen* の接続法 II 式の婉曲表現 (外交的接続法 ⇒S. 73) である。このように、いままで出てきた表現のなかでも、すでに接続法は扱われていた。

教科書¹. 接続法の形態 (S. 70)

教科書の補足説明

・接続法 I 式および II 式の変化形は必ず覚えること。

* 教科書にある「不規則変化動詞のなかには、例外的な形をとるものが若干ある」とは、例えば *stehen*→*ich stünde...* のようなものである (*stände* ではない)。

教科書². 接続法の時称 (S. 71)

教科書の補足説明

・接続法 I 式、II 式ともに、過去は *haben* か *sein* を、未来は *werden* を用いた複合時称で表すことになる (過去の II 式については英語の仮定法過去完了と同じ)。

教科書³. 接続法の用法 (S. 71)

教科書の補足説明

- ・ **接続法 I 式**の代表的な用法は、**間接話法** (indirekte Rede) である。
 - * 実は、三つ目の話法として、小説などでよく出てくる体験話法 (erlebte Rede) が存在するが、ここでは扱わない。のちに講読で登場した場合に解説する¹。
- ・ 発言内容が命令なら **sollen** を、依頼なら **mögen** を、それぞれ接続法 I 式にして間接話法をつくる。ただし、**mögen** は接続法 II 式にするパターンもある。
 - (例) Mein Vater sagt zu mir: „Lern Deutsch!“
→Mene Vater sagt mir, ich solle Deutsch lernen.
Er bat mich: „Schreiben Sie mir bitte regelmäßig!“
→Er bat mich, ich möge/möchte ihm regelmäßig schreiben.
- ・ 発言内容が決定疑問文なら、**ob** を用いた副文のなかに接続法 I 式の間接話法をつくる。
 - (例) Er fragte sie: „Kennst du Frau Wagner?“
→Er fragte sie, ob sie Frau Wagner kenne.
- ・ 発言内容が疑問詞を含む疑問文なら、間接疑問文の副文 (⇒文法教科書 S. 35) のなかに接続法 I 式の間接話法をつくる。
 - (例) Er fragte sie: „Was machst du heute?“
→Er fragte sie, was sie heute mache.
- ・ **要求話法**は、各人称に対する命令や要求を表す (英語の仮定法現在に近い用法)。
 - (例) Es lebe Deutschland!
ドイツ万歳!
 - * es lebe+1 格で「~万歳」。es は名詞の先取り。 (⇒文法教科書 S. 67)
 - Niemand störe mich bei meiner Arbeit.
誰も私の仕事の邪魔をするな。
- ・ **認容表現**を示す副文にも接続法 I 式を用いる。この場合、主文の語順には影響しない。
 - (例) Sei es schwer, sei es leicht, ich muss Deutsch lernen..
難しかろうとやさしかろうと、私はドイツ語を勉強しなければならない。
Ich werde den ganzen Tag arbeiten, es sei denn, ich werde krank.
私は終日働くつもりだ、ただし病気になった場合を除く (定型表現)。

連絡先など

講師のメールアドレス: tokan@nifty.com 講師のウェブサイト: <http://hhasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/2017/2017tusADeutsch1.html>

¹ 鈴木康志『体験話法: ドイツ文解釈のために』大学書林、2005 年を参照。